

ITI Scholar NEWS

vol.13 (2024, January)

ITI Section Japan



ITI スカラー通信第 13 号をお届けします

岩内洋太郎先生

University of Basel

(Basel, Switzerland)

2023年10月よりスイス・バーゼル大学(UZB)に ITI Scholar として留学しております，昭和大学歯科補綴学講座の岩内洋太郎と申します．この度はこのような貴重な機会を頂戴致しまして，ITI Section Japan の関係各位の皆様方に深く御礼申し上げます．日本の読者の皆様にスイス・バーゼルでの生活や，研究・臨床について少しでも有益な情報をお伝えできればと思います．

9月末にこちらに到着し，滞在許可手続きや住居，銀行口座開設といった生活環境も落ち着き，10月中旬から家族も到着しまして充実した日々を過ごしております．3月から同じくUZBのDepartment of Oral Surgeryに ITI scholar として井上絢介先生が先に留学されており，手続き関連も含めまして多くの事を助けて頂きました．この場をお借りして深く御礼申し上げます．さて，私は Nicola Zitzmann 教授の Department of Reconstructive Dentistry に所属しております．日本で言うところの補綴科に相当しまして，当科では義歯・IOD・IARPD などの可撤性補綴装置，クラウンブリッジを用いた審美補綴，インプラント補綴といった幅広い補綴治療が行われております．スイスでは全国民が保険に加入することが義務付けられておりますが，日本のような保険点数による国民皆保険制度とは異なっております．簡単に申し上げますと自由診療に対して，各々の加入している保険に応じてカバーされる金額が決まっているシステムになっております．ですから私も日本では補綴治療を専門に行っていましたが，必要となる治療費も異なるため一概に良し悪しは論じられませんが，治療計画立案の時点でかなり異なってくるのが非常に興味深いと感じております．スイスは物価が高いことで有名ですが，歯科治療費も同様でして，現在の円安状況を鑑みなくとも日本と比較して非常に治療費は高い印象です（UZBでは補綴まで含めてインプラント1本約75万円）．また，スイス人は真面目で愛国心が強くとても親切であると一般的に言われており，まさにその通りであると感じています．非常に日本人の性格に似ている点が多く，一番感じるのは時間に正確であるという点です．外来においても，キャンセルや遅刻してくる患者は殆どおりません．この気質は診療に関しても同様で，非常に丁寧に時間をかけて行っております．残念ながら，スイス国内では日本の歯科医師免許で診療を行うことは出来ません．ですが，日本に居た際は年々診療見学の機会は減ってきていたなかで，診療アシスタントとして多くの治療手技を間近で細かく解説してもらいながら見る事ができ，毎日が新鮮で非常に貴重な経験となっております．

11月下旬に Biel にて ITI Switzerland Leadership meeting が開催され，スイスに存在する4つの歯科大学のScholarship center（バーゼル・チューリッヒ・ベルン・ジュネーブ）に今年度留学している ITI scholar 全員が招待されまして，食事を共にする機会がございました．Leadership meeting 前には Leadership team の先生方と意見交換を行い，「これからの時代は積極的に SNS を利用して，もっと ITI

として情報を発信していこう」という話し合いがございました。改めて私達 ITI Scholar の役割として、しっかり情報発信をしていくことは大切だと感じましたし、今後も積極的に ITI のイベントに参加して情報発信をしていけたらと考えております。また、とても驚いたのは Scholar7 人中 4 人が女性でして、加えて次期 ITI Switzerland chairman のチューリッヒ大学 Nadja Naenni 先生、現職のジュネーブ大学 Irena Sailer 教授、その前任は私の教授である Nicola Zitzmann 教授と 3 期続けて女性です。バーゼル大学学生の男女比も 7:3 程で女性の方が多く、スイスの歯科界は女性活躍が素晴らしいと感じております。

UZB では臨床エリアとラボ・講義室・図書館エリアの 2 セクションに分かれており、普段はラボで研究と臨床エリアとを行き来しております。また、学生講義や研修医向けの講義にも参加しております。日本での歯科教育と異なる点も多く、とても勉強になっております。私自身、大学での臨床・研究・教育と日々の生活に追われ、休みが殆ど無かった日本での生活に比べますと、週休 2~3 日でゆったりとした毎日です。妻と生後 6 ヶ月の子供も一緒に来ておりますので、子育ての時間もしっかり取れて楽しい日々を送らせて頂いております。バーゼルは秋の大きなお祭り「Herbstmesse」が終わり、クリスマスマーケットが始まりまして、年越しムードを満喫しながら、スイスの文化や生活に触れております。今後も定期的に私が体験して感じた、日本とスイスの歯科や文化の違いについてご報告をしていきたいと思っております。



UZB の外観。2019 年に現在の場所に移転したばかりで非常に綺麗な建物です。



Department of Reconstructive Dentistry 教授 Nicola Zitzmann 先生と



Guest research member の皆とラボにて



今年度のスイス ITI scholar 集合写真



Biel にてアルプス山脈をバックに家族と

ありがとうございました。

